

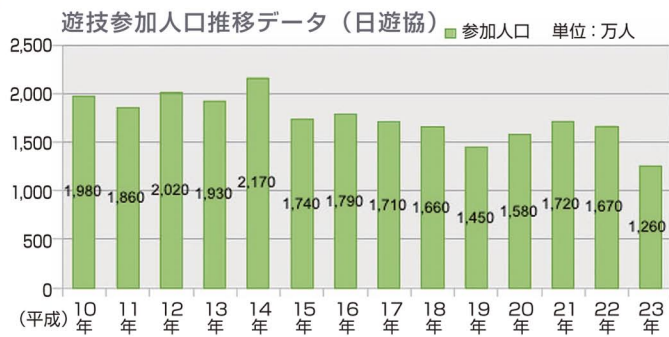
ぱちんこ 言葉物語

31

開店待ち

今回の言葉物語は「開店待ち」という言葉と、それに至る行動心理を少し掘り下げてみたいと思います。

この度レジャー白書では恐るべき数字が出ていました。簡単に言うと遊技参加人口は全盛期の約6割減となり、その減少数はおよそ東京都の人口全てが消失したに等しい状況となります。それとともにユーザー全体ではヘビー化がさらに進み、新規参加人口はほぼ見込めない状況にあると懸念されます。遊



となる人数の比率が高まる状況となっているのはご存知の通りです。

また、時間や可処分所得の投資が24時間手軽に楽しめる携帯コンテンツや携帯ゲーム等に向けられることで、相対的なパチンコへの魅力低下により投資が減少していることも重大な要因でしょう。それは将来のポリュームゾーンとなる年代がアナログなパチンコ業界自体から離反しつつあるのが感覚的に理解できていながらも、それに対抗できる効率的な手段が見いだせないまま時間が過ぎてしまい、そしてその結果は2013年のレジャー白書にて、10年間で20代の参加率が49・5%から18・1%に、10代の参加率が14・8%から2・0%に激減したという結果として表れてしまっています。

昔の面影もないのはこのような状況や可処分所得の減少等の環境要因も加わり、昨今では開店待ちと呼ばれる「開店時から目的の店舗で遊技することを目指し、開店時間よりも前に店舗前にて並ぶユーザー」の参加は激減し、郊外店のように自家用車の中で待機が可能な一部の状況を除いて、全盛期の面影は見られなくなってしまうました。今、24時間という人間に平等に与えられた時間を、パチンコを中心に費やす人々は急速に減少していることを現場で働く方々は体感していることと思います。

また、店舗やメーカーなどが、ユーザーとの接点構築という視点からのアプローチが無くなくなったことや、客単利益額の上昇により新装開店が単なる新台の導入日へと変化したこと、後者は例え現在の5号機パチスロでは、最も出ると言われる最高設定の設定6を投入しても約3割から4割は負けけるなど、運任せの要素が強くなったことが挙げられます。

さて、開店待ち激減の原因は多々ありますが、考えられる要因としては「新装開店の価値下落」と「遊技機の性能変化」が大きいでしょう。前者は当時のモーニングなどに代表される期待感向上の

ホールへの信頼感の表れ

期待には応えられない

接点構築の視点から

（大和田敏男）

2008年11月22日に六本木ヒルズにて行われた山佐のウルトラマンスロット先行展示会。イベントブースは家族連れもOKのため多くの来場があった▼



ホールへの信頼感の表れ

（大和田敏男）